

機能部材事業

2021年度中期経営計画の基本方針

2021年度中期経営計画では、都市化、少子高齢化、環境問題の深刻化、テクノロジーの進化といったメガトレンドの中で、自動車、FA・ロボット、医療、鉄道を成長分野と位置づけ、「投資効果の刈り取り」「リソースの集中」「事業間シナジーの創出」に注力します。

2019年度業績概況

■ 磁性材料・パワーエレクトロニクス

磁性材料のうち、希土類磁石は、産業機器関連においてFA・ロボット需要の大幅な減少があったほか、自動車用電装部品も減少しました。フェライト磁石は、自動車用電装部品が減少したことにより、磁性材料全体としても前年度と比べて減少しました。

パワーエレクトロニクスのうち、軟磁性材料およびその応用品は、電気自動車向けが増加した一方、変圧器用のアモルファス金属材料や一部の民生機器用途部材は減少しました。セラミックス製品は、自動車用電装部品向けや医療・セキュリティ機器向けの需要が増加した結果、パワーエレクトロニクス全体としては前年度並みとなりました。

調整後営業利益は、磁性材料の需要が減少したことにより減益となりました。営業損益は、磁性材料事業について、主に希土類磁石事業の事業環境の変化、およびこれに伴う将来における収益性を見直した結果、減損損失を計上したため減益となりました。

■ 電線材料

電線のうち、医療向けはチューブ、ケーブルとも需要が増加しました。鉄道車両用電線は大型案件の端境期となり減少、巻

線は自動車および産業向けともに需要が減少しました。機器用電線もFA・ロボット向けを中心に需要が減少し、電線全体としては前年度と比べて減少しました。

自動車部品は、グローバルでの新車販売台数の減少により自動車用電装部品、ブレーキホースともに需要が減少しました。

調整後営業利益は、需要が減少したことなどにより減益となりました。

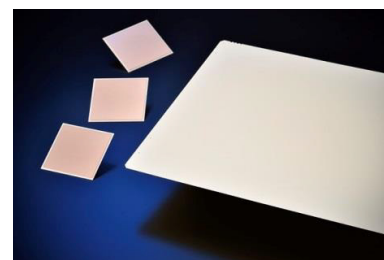
2019年度実績

磁性材料・ パワー エレクトロニクス	売上収益	1,168億円
	調整後営業利益	14億円
	調整後営業利益率	1.2%
	ROIC	0.9%
電線材料	売上収益	2,133億円
	調整後営業利益	67億円
	調整後営業利益率	3.1%
	ROIC	5.0%
合 計*	売上収益	3,301億円
	調整後営業利益	81億円
	調整後営業利益率	2.5%
	ROIC	2.5%

※セグメント間相殺前の単純合計値



医療用電線・チューブ



SiN基板